

CL-4-Ⅲ-03S	医薬品毒性学Ⅱ	第4学年	後期 必修	1単位
担当者	森 友久			
一般目標 (GIO)	我々が使用する医薬品は生体にとって好ましい作用を発揮するだけでなく、毒性をも誘発する。これらの毒性という結果は、必ずしも予期出来るものではなく、如何に少なくするか、また、起こってしまった場合、どのように対処するかが重要である。本講義では、医薬品の毒性だけでなく、企業での医薬品開発を踏まえた有効性と毒性への考え方を理解する。また、医薬品の創薬・開発ならびに関連する法規についても理解する。			
到達目標 (SBOs)	【総論】 1. 毒性にまつわる死の概念を理解できる。 2. 中毒時の一般的な処置方法を説明できる。 3. 医薬品開発における安全性の重要性を説明できる。 【年齢および病的要因】 1. 臓器障害時における薬物動態変化および要因を説明できる。 2. 年齢的要因の薬物動態および薬理作用に与える影響を説明できる。 3. アレルギーを伴う、薬物中毒について説明できる。 【創薬と安全性】 1. 医薬品の創薬・開発におけるリスクとベネフィットについて、理解できる。			
受講心得・準備学習等	主要な医薬品による中毒の発現機序を理解することが目標となるため、薬理学、薬物動態学などの基礎的知識は事前に確認しておくこと。			
事後学習・復習等	薬学を学んでいることを念頭に置き、毒性が起きうることを想定して学習する。			
オフィスアワー	授業のある日の16時～18時。メールによる質問・相談は随時受けつける。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行なうが、SGDも実施する
回	項目	内容
1	総論(1)	毒物と死
2	年齢および病的要因(1)	用量関連性副作用と非用量関連性副作用
3	年齢および病的要因(2)	肝障害および腎障害時における薬物動態変化
4	年齢および病的要因(3)	妊婦・新生児・少児・高齢者における薬物動態および薬理作用変化
5	総論(2)	薬物中毒の分析・診断
6	総論(3)	中毒症状と対症療法
7	総論(4)	中毒に対する処置法
8	総論(5)	創薬・安全性・倫理
9	総論(6)	副作用に関する歴史と諸制度
10	総論(7)	薬物による重篤な副作用および機序①
11	総論(8)	薬物による重篤な副作用および機序②
12	中毒の実際	医薬品の開発における安全性の担保 (SDGを実施)

成績評価の方法	試験の成績によりに評価する。
成績評価の基準	試験の成績が60%以上を合格とする。
教科書	森 友久編 「医薬品中毒に関する基礎知識」(東プリ)
参考書など	川西 正祐他 図解 薬害・副作用学